

平成 24 年 12 月 5 日

南 の 風 2 2

南部ミニバスケットボール連盟
会 長 藤原 敬一

師走になりました。「あっと」いう間の1年だった気がします。年々1年のサイクルが速くなるような気がします。「1日1日を大切にしなければ」と思う今日この頃です。

バスケットボールのイベントも大詰めとなります。今年は残念なことに、年末のウインターカップが東京ではなくて広島で開催されます。ちょっと見に行けないかもしれません。そして、年が明けると待ちに待ったオールジャパンが始まります。1月1日から代々木第一、第二、駒沢体育館で開催されます。まだ組み合わせは決まってないのですが、今年はどんな戦いが繰り広げられるのか今から楽しみです。皆さんもぜひご観戦ください。

さて、21号の続きを書きます。スクリーンプレイというのは、合理性が要求されるプレイです。簡単にノーマークが出来やすい、ミニバスケットボールには必要ないプレイともいえます。ミニバスではやはりノーマークになるためには、ストップダッシュを中心とした、Vカット、Lカット、Cカット（カールカット）、ポップアウトなどの基本を身に着けることの方が大切です。ただミニバスの時期に正しいスクリーンのかけ方を学ぶことは、決して無駄ではないと思います。そして、同時にスクリーンの外し方も一緒に練習しておくことも大切です。（怪我の防止やディフェンスバランスの維持などから）

ここで、スクリーンに対するディフェンスの考え方について書きます。前号と同じように、トップと右45°（攻撃するリングに向かって）のインサイドスクリーンで話を進めます。トップが45°にパスした瞬間、トップに付いていたディフェンスは当然、ジャンプトゥザボール（ジャンプディナイ）です。その際、トップのプレイヤーがボールと一緒に45°のプレイヤーに近づいていった場合は、早めに「ピック右」とコールします。そしてスクリーンがセットされる直前に「セット」とコールします。スクリーナーのディフェンスは、**コールしながらスクリーナーから絶対に離れないようにします。**ボールマークのディフェンダーは「セット」のコールが聞こえるまでは、1対1のディフェンスポジションを保つようにします。そしてミドルドライブは絶対に阻止します。「セット」のコールがあったらボールマンにぴったり付き、ボールマンがスクリーンを利用してきたら、右手右足で体をリードしながらファイトオーバーして付きます。（ファイトオーバーが基本です。）スクリーナーのディフェンダーは、スクリーナーにぴったり付いたまま、ボールマンのディフェンダーがそのまま付いていけそうな場合は、「ステイ」とコールします。スクリーンに掛りそうなら、すかさず「スイッチ」とコールします。ステイの場合は、ボールマンのディフェンダーはドライブインを阻止すると共に、中へのパスをチェックします。スクリーナーのディフェンダーは中へのパスインに備える（パスディナイ）と共に、スクリーナーの次の動きを読み対応します。スイッチの場合は、スクリーナーのディフェンダーは、ボールマンとの間合いを一気に詰めながら、ドライブインを阻止します。間合いを空けてしまうと、ボールマンのプレイの幅が増えてしまいディフェンスしづらくなります。スクリーナーに付くディフェンダーは、パスディナイしながら裏へのパスをチェックします。3線のディフェンスへのコール（「裏」）も忘れないようにします。また、ポップアウトしてロングショットを狙う動きへの対応も大切です。コミュニケーションが何より必要です。